



東京大学ヒューマニティーズセンター
第41回オープンセミナー



9/1 締切

2021/9/3 (金) 17:30-19:30

オンライン開催

東アジアの なかの 墓誌

報告者:

東京大学史料編纂所 准教授

稲田 奈津子

東京大学史料編纂所 外国人研究員

田 衛衛

学習院大学東洋文化研究所 助教

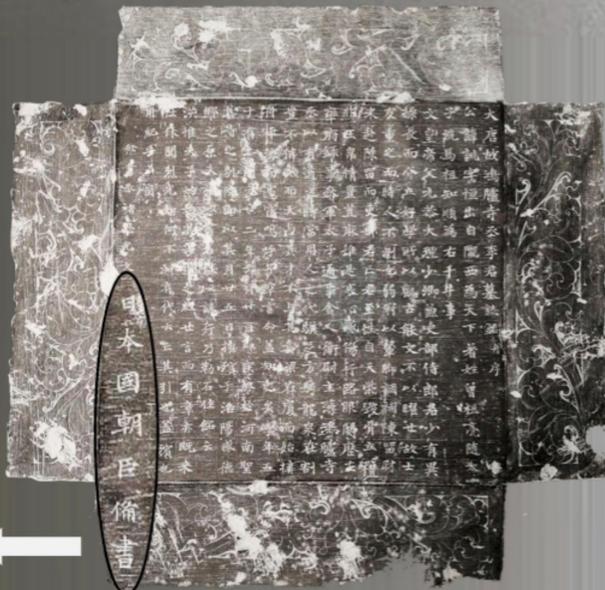
植田 喜兵成智

コメント:

浙江大学歴史系 教授

王 海燕

「日本国朝臣備書」



東京大学ヒューマニティーズセンター
第41回オープンセミナー



東アジアのなかの墓誌

概要

残存史料の少ない古代史研究において、墓誌(死者の履歴などを記し、遺体とともに埋納された文字資料)は貴重な存在として注目されています。本セミナーでは、日本・中国・朝鮮の墓誌をとりあげ、その魅力の一端を紹介していきます。



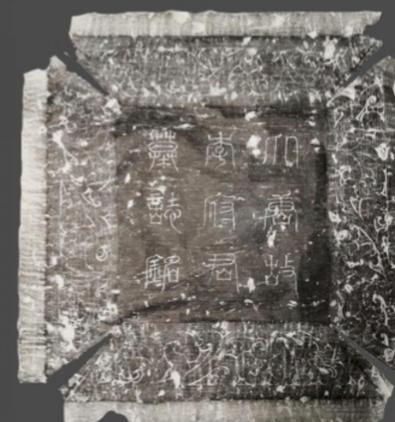
稲田奈津子: 日本古代の墓誌と東アジア

現存する日本古代の墓誌は16点のみですが、それぞれに個性あふれる資料となっています。どういった人々が墓誌を作るのか、どういった内容が記されるのかを概観し、東アジアとの関係についても考えてみたいと思います。

田衛衛:

吉備真備書<李訓墓誌>の
発見とその意義

近年公表された中国・唐代の役人である李訓の墓誌には、日本人留学生の吉備真備が書したと記されていました。日本のみならず中国でも話題となったこの墓誌について、発見の経緯を紹介しつつ、その歴史的意義を論じていきます。



植田喜兵成智:

古代朝鮮関連の唐代墓誌とその研究動向

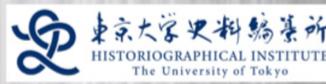
近年、中国で出土した唐代墓誌には、百済や高句麗遺民のもの、あるいは朝鮮半島に赴いた唐人のものが発見され、古代朝鮮の史料的不足を補完するものとして期待されています。今回は、現在までにどのような墓誌が発見され、いかなる研究傾向にあるのかを整理し、今後の研究の可能性や方向性について論じます。



主催: 東京大学ヒューマニティーズセンター



東京大学史料編纂所



共催: JSPS科研費(19H01301)「古代日本と朝鮮の金石文にみる東アジア文字文化の地域的展開」(代表: 三上喜孝)



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

問合先: 東京大学ヒューマニティーズセンター事務局

URL: <http://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>

E-mail: humanitiescenter.utokyo@gmail.com